

メイドⅡアーカイブ

○はじめに

もし、自分にガチ恋している女子高生メイドがいたら？ という、現代日本で暮らしていたらほぼあり得ないシチュエーションを楽しむボイスドラマです。

けれども、メイドとイチャイチャする話でもありません。日本にもおそろく存在している「国家より権力をもっているお金持ちグループ」のひとりになって、道楽で買った子供をメイドという名の性奴隷へ育成して楽しむ……そんな設定の物語です。

今作はその物語をメイド側の視点で描いた話になります。

○キャラクター

雪子

○五歳の美少女。ハーフ。現在、中○三年生。虐待を受けて育った過去を持つ。とある出来事をきっかけに主人公の養女になり、学校に通いつつメイドとして尽くしている。毎晩のように主人から性的な奉仕を求められるが、むしろ本人がそれを望んでおり、愛されることに喜びを感じている。

趣味は小説を書くこと。学校では身の上を隠しており、主人公との関係は「執筆中の恋愛小説での出来事」としてクラスメイトに語っている。

本作のメインヒロイン。

主人公

財閥系企業グループの当主。独身。頭脳明晰でイケメンだがロリコン。二〇代後半から三〇代を想定。基本的に善良な男で社会常識も持ち合わせているが、支配階層に特有の「ゆがみ」を内包しており、彼の場合は紳士の嗜みとして性奴隷（メイド）の育成に励んでいる。メイドに対しては性奴隷から逸脱するほど深い愛を注いでおり、快適な部屋を与え、名門学園に通わせ、一流の家庭教師までつけ、同好の諸氏からすれば「性奴隷を溺愛してて草」と笑われるほどのめり込んでいる。そんな彼だが、このたび縁談が持ち上がり、公私ともに落ち着かない生活を送っている。

メイド

主人公を実務面で補佐しているメイド。二〇歳くらい。秘書のようなイメージで演じてください。一応、彼女とは身体の関係はない設定です。主人公への呼びかけは「旦那様」。

叔父

雪子の父方の叔父。性的な虐待するために両親を亡くした雪子を引き取ったクズ。おそらく主人公によって消されている。

◎台本 メイドアーカイブ

説明

○五歳のメイド「雪子」が、主人に命じられて自身の半生を記録する――
そんなシチュエーションを想定して演じてください。

タイトルコール

雪子

メイドアーカイブ

「ご主人様の忠実なメイド「雪子」の○歳から○五歳までの記録。そして大好きなご主人様へ送る大事なメッセージ」

○屋敷の一室

（舞台は現代。大富豪の屋敷内にある設備の整った「オーディオルーム」をイメージしてください。作中の季節は初春です。3月くらい。雪子の卒業式の前日という設定です）

SE

（マイクをポンポンと手で叩くような音）
（マイクのスイッチをオフにする音）

雪子

――ご主人様。マイクの準備ができました。
私、雪子の○歳から○五歳になった本日までの出来事をお話すればよろしい
のですね？

主人公

（うむ。今日は、君が当家のメイドになる以前のことを記録したい。肩の力を抜いて語ってくれ）

雪子

――はい、かしこまりました。
明日で中○も卒業……。私にとってもこの収録はよい機会かもしれません。
昔のことをお話するのは少々気恥ずかしいですが……。○歳の頃、ご主人様
が私を買ってくださった少し前からお話をします。

（軽く咳払いして）

SE

（マイクのスイッチをオンにする音）

雪子

あの頃の私は無知で無学で、叔父の顔色ばかり伺う子供でした。叔父が手をあげると身をすくませ、怒られないようにただそれだけを気にしていたと思います。

今思えば酷い生活をしておりました。両親が交通事故で亡くなった小学三年生の終わり頃、叔父に引き取られたのですが、引き取られたその晩に、下着を下ろされ、オマンコにペニスを入れられました。痛かったことを覚えています。

主人公

（抵抗しなかったの？）

（トラウマを思い出して声が震えていきます）

雪子

――抵抗などできませんでした。ただ怖くて、言葉も出なくて、最初は何をされたかもわからなくて……

けれども悲鳴はあげたみたいで、叔父は「うるさい」と言って、脱がした私のパンツを口に押し込みました。それが苦しくて、気持ち悪くて吐いてしまつて……すると叩かれて……

主人公

（震えているようだが大丈夫かね？）

雪子

――ええ、大丈夫です。問題ありません。続けます。

（軽く深呼吸して気持ちを落ち着かせます。声の震えは収まります）

叔父は初めからそういうことをするために私を引き取ったようです。行政の審査もあったようですが、この髪の色をご覧になればわかるように、私の母は外国人でそちらとは交流がなく、父方の親類も叔父以外にいなかったため叔父が保護者として認められたようです。

叔父はそれから昼夜問わず私を犯しました。その事実を周囲に悟れないよう、わざわざ郊外に引っ越してまで私を犯し続けました。最初はやめたと訴えましたが、そのたび叩かれるので、何も言わないことにしました。

けれど、黙っていると「このマグロが」と怒鳴られて、やはり叩かれるので、「許してください」と言うようにしました。けれど叔父さんは許してく

れなくて、むしろその反応が嗜虐心のような物を刺激したのかペニスを深く入れてくるようになりました。私は無知で無学だったので、言葉の選択を間違ったようです。

もし私に人並みの頭があれば、誰か大人に助けを求めることができたでしょう。しかし、この頃の私は学校に通うどころか、家から出ることも禁じられていたので、そうした対処を思いつくことができず、ただ腰を振る叔父の射精を待つことしかできませんでした。

……いつしか私は射精されることが嬉しくなりました。精液が出たらペニスを抜いてくれるからです。なので（読み・こと）事が終わると「叔父さん、射精してくれてありがとう」って言うようになりました。

（つらそうな感じで）

オマンコから汚い精液を垂らしながら。笑顔で。

主人公

（大丈夫かね？ やはりやめておこうか）

雪子

（自分が暗い口調で話してたことに気づき、ハツとした感じで）

——あ、いえ、大丈夫でございます、ご主人様。当時辛かったことは確かですが、この件は私の中で片付いてますので。

主人公

（休憩にしよう）

——え？ 休憩？ 初めてからさほど時間は経っていませんが…… わかりました。お呼びがあるまで外の空気を吸ってきます。

SE

（マイクをオフにする音）

雪子

それでは少しの間失礼します。

SE

（右へ遠ざかる足音）

（ドアを閉める音）

（呼び鈴を鳴らす音）

（ノックする音）

（ドアを開ける音）

メイドA

（少し離れたところから）

旦那様。例のディスクをご用意しました。こちらです。

主人公

（うむ、ご苦労）

メイドA

データがオリジナルです。ネットへの流出はないと本人から直接確認を取っています。

主人公

（この撮影者はどうした？）

メイドA

——はい、撮影者は先ほど処理致しました。勿論雪子には知らせておりません。

主人公

（よろしい。下がりましたえ）

メイドA

では、失礼します

SE

（ドアを閉める音）

（左へ遠ざかる足音）

（ディスクをパソコンに挿入する音）

(ビデオの録画ボタンを押す音)

雪子

（小○生が脅されながら朗読してる感じで）

はっ はっ はっ はっ 私は、叔父さんの、はっ はっ はっ 叔父さんの、ロリオナホです。叔父さんの所有物です。こ、この子供穴に、叔父さんザーメンを出して貰うために、引き、引き取って頂きました。わ、私の子供オマンコは叔父さん専用です。叔父さんなしでは生きていけません。叔父さんザーメンをここに注いで貰わないと私はだめになります。

いぎつだ、だから、私の○歳ロリオマンコに叔父さんの、うう 特濃ドロ
ドロザーメンを、たくさんくらさい……

よ、読んだよ……
だからもう……

（終わりにして、
と言いかけたところで激しいピストンが始まります）

いぎっ いっ！ いっ！ 痛い！ いぎっ あいつ うっ うっ うっ う
 つ ああ！ 速い！ 速く動かないでよお！ あっ あっ あっ あ
 つ あっ うぐっ 壊れるよお オマンコ壊れるう ああー ああー ああ
 ー あんっ 締めるからあ オマンコ締めますからあ うう！ そうですう
 私は叔父さんの物です！ 叔父さんの子供オナホですよ！ いやあ 痛いの
 やあ あうつ 重いよお 潰れるよお あーっ あーっ あーっ
 あーっ あーっ もう許してえ セックスやだよお ザーメン出していいか
 ら、もう、終わりにい うあん！ 出してえ 出してえ ザーメン出してえ
 あぐっ 許して！ 許して！ 許して！ 許してくらさいいゝ

（射精・ズボツと奥にペニスを押し込まれたあとビュツと出されて「ひんっ！」と悲鳴が出ます）

うう はあ はあ うう うう はあ はあ
うう つ うう うう うう う、 ううー ううつ ひつく うう
ひんつ！ うゝゝつ うつ う うう うゝ…… ザーメン嫌あ……

——言う…… 紙に書いてたこと、言うよお はあ はあ はあ 叔父さん、ザーメン、出して、くれてありがとう…… ロリオナホ使ってくれてありがとう……

(叔父さん立ち上がる。精液で汚れたシートに眉をひそめる)

——う、うん。布団、干しておく。ザーメンついたオマンコも、洗っておく……

(外へ出る準備をしながら「夜もセックスするからな。ぐへへ」と言う叔父)

——う、うん

(そのときはマンコをもっと締めるんだぞと脅される)

——ひっ もっとオマンコ締められるようにするから許してっ 許して、許して、許して……

——え？ カメラに？ 今のセックスの、感想を？ 指でオマンコを開きながら？ ピースもして？

——うん、わかった。こう？ もっと開くの？

うう…… ザーメン垂れてきた……

ひっ ごめんなさいっ オマンコ締めて、出ないようにしますっ

うう 言うから許して……

(暗い感じで朗読してる口調。こういうことを繰り返して叔父は雪子を洗脳してるのです)

今日も、叔父さんにいっぱい犯してもらったよ。ロリオマンコから、ザーメンぼたぼたお漏らししてます。 わ、私はいけない子供です。大人をたぶらかすダメな子供です。私がオマンコだから犯されます。ロリオマンコから叔父さんザーメンを垂れ流しているのは私のせいです…… 全部私のせいです……

(叔父さんに自分のことが「好き」と尋ねられます。けれど、雪子なりの信念があって「好き」とは絶対に言いません。なので言葉をぼかすような感

じで「いい人」と応じてください)

——叔父さんのことは好きか？ (間をあけて) ……うん…… いい人だと思ってます。

お、終わり。

(動画が切れる音)

SE

（ノック音）

雪子

ただいま戻りました、ご主人様。

主人公

（君は今、幸せかい？）

雪子

——え？　今、幸せか？

（心外だというふうに）

は？　おっしゃる意味がわかりません。

SE

（近づく足音）

雪子

雪子は幸せに見えませんか？

（若干、早口で）

ご多忙にも関わらず毎日のように可愛がって頂き、今もお腹に残っている
（注・白いのⅡ精液）　白いのの感触が嬉しくて仕方ないのに幸せには見えな
い？

……ふむ、もう少し幸せそうな顔ができるよう努力します

……んへ♡

主人公

（……記録の続きを撮ろう（内心、今のは可愛かったと思いながら）

雪子

（ちよっと今のはハズしたかなと恥ずかしくなりながら）

——あ、はい。記録の続きですね。

（何を話すか考えながら）

叔父との関係はお話したので……　仕事を始めた頃の話にしましょう。

一〇歳になると週末は叔父に連れられてホテルで過ごすようになりました。
場所は毎週変わりましたが、大抵は観光地にあるファミリー向けのホテルで
す。そこで私は客のロリコンと引き合わされて、娘のふりをさせられました

主人公

(娘のフリを?)

雪子

——ええ。叔父はネットでロリコンを(読み・つって)募って、私とデートさせる商売を始めたのです。方法はこうです。

まずは叔父と私でホテルにチェックイン。ロリコンは別口で入館して、ホテル内のトイレで叔父と入れ替わります。そして、ロリコンと部屋に戻って親子ごっこをするわけです。ホテルのスタッフにバレたことはありませんでしたね。

部屋では当然、本当の親子なら絶対にしないことをさせられるのですが――

(ふと思いだしたように) あ、そういうえば、なぜかロリコン達はセックスする前に私をホテルの大浴場に連れて行きました。

主人公

(大浴場へ?まさか男湯?)

雪子

(このパートは淡々と読むのではなく、当時の状況を思い出しながら)「あのときは嫌だったなあ」みたいな感情を込めて読んでください)

——はい。男湯です。

ロリコンと手を繋いで、家族連れで混雑する浴場へ行くのは、とても恥ずかしかったです。それに一〇歳にしては少し身長もあったので、私が更衣室に入ると男性達の目が集まるのです。

客のロリコンにとってはその視線が優越感のような物を刺激するのでしょう。

う、わざと人目がつくロッカーで着替えさせられました。

私がシャツを脱ぎ、スカートを下ろして下着一枚になると明らかに更衣室の空気が変わります。そして皆、それとなく私のパンツを見て、早く脱げというような顔をするのです。そんな中、私はパンツを下ろします。なるべく見られないように…… 内股を閉じて……

そうした仕草がロリコンや脱衣所の男性を悦ばせると頭の中ではわかっておりましたが、恥ずかしさという物はどうすることもできません。私にできたことは彼らと目を合わせないことだけでした。

服を脱いだ後は洗い場に向かいます。ロリコンは先程と違って人が少ない場所へ私を誘導して座らせます。なぜなら私のワレメを洗うフリをしていじりたいからです。

きつとロリコンにとって子供のオマンコを洗う行為はやってみたいことのひとつなのでしょ…… シャワーを流しながら、石けんをつけた手で私のワレメを下から上になぞります。不思議なことですが、ロリコンの客達は示し合わせたようにそうするのです。

それから周囲を見回して、誰もこちらを見ていないようならば私のワレメを開き、「洗ってあげるからね」などと言ってペニスが入る穴をいじりはじめます。まるでそういう台本でもあるようにみんな決まってそうしました。

ロリコン達は丹念に、そして執拗に私のアソコを洗って、それに満足するとなぜか自分の背中を洗うように言います。

私が背中をゴシゴシ始めると「はあく」と気持ちよさそうな声をあげます。これもみんな同じです。周囲から私がロリコンの背中を流している光景はどのように見えていたのでしょうか？ 本当に父と娘として見られていたのでしょうか？

私にはわかりませんが、そうやってロリコンの背中を洗っている私をねっとりした視線で眺める入浴客もいて、仕事用の作り笑いが引きつることがありました。

主人公

（そのときロリコンは勃起してるのかね？）

雪子

——え？ あ、はい。ロリコン客のペニスはこの頃になると完全に勃起しています。大抵はタオルを被せて隠していますが TENT を張ってるので丸わかりですね。

んと、そうですね…… ほとんどの客がこの時点で一度抜きます。

浴場が混雑していれば自分の手で素早くびゅっと、空いていれば私に手コキさせることもありました。泡立たせた勃起ペニスの先端を握らされて、どぶつと射精される感触ほど気持ち悪い物はありません。石けんのいい香りが生臭いザーメンの臭いに変わっていくのも嫌で仕方ありませんでした……

主人公

（……すまなかった。嫌だったのだね）

雪子

——え？ すまなかった？ なぜ、ご主人様が謝るのです？

（ハッと気づいた感じで。ちよっとうわずった口調で慌ててください）

主人公

あっ もしやご入浴のお手伝いを気にされているのですか？ ご主人様のペニスから出る白いのが良い香りですし、そもそも私が手で射精を促している物です。気になさらないでください。射精して頂くと私は嬉しく思っているのですから♡

(ならいいのだけど…… 話を続けてもらおうか)

雪子

——はい。続けます

身体を洗い終えたら一緒に湯船に浸かります。週末で混雑した大浴場ですのでここでは性的なことをされません。ただ湯に浸かるだけです

けれども中には「子供とのデート」に慣れたロリコンもありまして、そうした輩は観光地の浴場が閑散とする時間帯を知っています。家族連れが多いホテルならば夕食時、一九時くらいに一度人が引く物で、そのタイミングを狙って湯船の中でペニスを捻じ込まれました。

痛かった、ということはありません。もうこの頃には慣れていましたから。ただ、浴場でのセックスは嫌な物で、[\(読み・こと\)](#)事が終わった後オマンコから漏れ出た精液が湯に浮かぶのをぼんやり見たのが心に残っています……。

そういえば、されたすぐあと、私と同じくらいの女の子を連れた本当の家族連れが湯船にやってきたことがありました。女の子ははしゃいで……

ロリコン客がその子のワレメをガン見しているのがおかしくて。ふふ……

こうして大浴場で不潔な親子ごっこをした後は、すぐに部屋へ戻ってセックスの相手をさせられました。[\(読み・ほてった\)](#)火照った身体のままベッドに組み敷かれ、足を開かされ、真っ赤になった肉棒をねじ込まれるのです。入浴中により興奮していたでしょう。大抵、三分もかからず彼らは私の中で果てます。

そして、私に謝ります。「こんなことをしてごめん」と。常連客以外は私のような子供とするのはこの時が初めてのことが多く、欲望を満たした後、罪悪感を抱くのでしょう。勝手な物です。ただ、この頃の私は無知で無学で、叔父の言いつけを盲従するだけの馬鹿な子供だったので、謝るロリコン客にこう言います。

謝らないで「お父さん」

気持ちよかったよ「お父さん」

ご飯の後もいっぱいしようね「お父さん」……って

(23:03)

ここは笑顔でロリコン客をフォローしてる感じにしてください。語尾に「♪」がついてるくらいの演技でオッケーです。で、最後の「……………」って「は冷たい感じですね。それと「ご飯のあと一杯」は「いっっぱい」とまでいなくても貯めて誘う感じをお願いします。

私からすれば彼らにされていることは叔父にされていることとさほど変わりなく、むしろ乱暴な叔父の相手をしないで済む分、楽でした。

まあ 大浴場に連れていかれるのは嫌でしたが。

主人公
(ここで休憩にしよう)

雪子
——あ、はい。休憩ですね。ご主人様はお疲れではありませんか？ お茶のご用意でも……

主人公
(いや、私は大丈夫だ)

雪子
——ならばよいのですが……

SE
(椅子から立ち上がる音)

雪子
……あ、あの。どうか雪子のことを汚いと思わないでくださいませ。身体は毎日洗ってますから…… ロリコンに汚されていたのは何年も前のことではないです。

主人公
(雪子は汚くないよ。気にしてはいけない)

雪子
はい。ありがとうございます。
では一旦失礼します。

SE

(ドアを閉める音)

(右へ遠ざかる足音)

(スマホのバイブ音)

メイド

旦那様、新しい動画をご用意しました。

主人公

(持ってきてくれたまえ)

メイド

はい。

SE

(近づいてくる足音)

(ノックする音)

(ドアを開ける音)

主人公

(ごくろう。入手元はどうした？ 処理できたのかね？)

メイド

はい。入手元は…… (処理したのか？ と確認を求められ)
の通りに致しました。それでは下がります。

ええ、ご指示

SE

(ディスクを挿入する音)

(動画を再生する音)

○ホテルの浴室（部屋備え付けのバスルーム）

ト書き

（一〇歳の雪子がホテルで売春をさせられていたときの盗撮動画になります。）

客は太った中年の想定で。ペニスは短め。雪子は客を取るようになったことでロリコンが好きそうなロリキャラを演じるようになりました。客を「お父さん」と読んでいるのはその一環。この日も客の願望に合わせて幼めの少女を演じています）

SE

（浴室を思わせる音・シャワーなどの反響音）

雪子

（甘えてる感じで演じてください。一〇歳ですが幼稚園児くらいのイメージで。仕事中の雪子は完全に演技をしています）

おとくさん♡ おちんちん洗ってあげるね♡ ばっちーおちんちんは可哀想だからキレイキレイしてあげるの♡ あは♡ お父さんのおちんちん、またおつきくなってる♡ おつき、おっきだねー♡ それにカチコチー♡ 何でこんなになってるのー？（笑）

ああん、オマンコ見ないで♡ 恥ずかしいからあ♡
はい、おちんちんに集中♡

客

（はあはあ♡）

雪子

——うふ、そうそう（笑） おちんちんが洗いやすいようにピンってさせて♡
あはあ ほんとにピンってしたあ お父さんは凄いなあ おちんちんを（読み・じゅー）自由に動かせるんだね♡

じゃ、洗うよー♡ んしょ♡ んしょ♡ んしょ♡ んしょお♡ 硬くて洗いやすーい♡ 痒い所はありませんかー？ うふふ♡ ここ痒いの？ このくびれてる所お？ ここをこしこしすればいいの？ 石けん、いっぱいつけてこしこしするねー♡ こしこし、くにくに♡ こしこし、くにくに♡
あはあ 気持ちよさそー♡ 私の手、気持ちいい？ 洗うの上手い？ こう

やって洗うのはどう？ おちんちんの根元をねー 右手で押さえてー 左手は輪っかを作ってー 根元からー 先っちょの膨らんとこまでー ゆっくりー ゆっくりー (伸ばして) んーっー♡ って、絞りながら洗うの♡ もう一回やるねー♡ ゆっくり、ゆっくりー (伸ばして) んーっー♡♡ あはは♡ もっとやるねー♡ んんっーっ♡ あはは、おちんちんすっごく硬くなったあ♡ それに伸びてる♡ なんぞー？ どうしてー？ どして硬くなってるのお？ こんなになるとー 指で洗うのー 疲れちゃうよー♡ 疲れるのやだなー♡

(お芝居するようなわざとらしきで「んー」と考える感じで唸ってください)

んー あかね、あかね、耳貸して？

お父さん♡ そのおちんちん、私のオマンコで洗っていいよ♡ うふ♡ 私のオマンコってね、石けんで滑るようにするとね、指がするするって入ってくの。きつとね、お父さんのおちんちんもするする入って、綺麗に洗えると思うよ♡

はい、どーぞ。 (股を開いて、誘う感じで) オマンコスポンジ使ってくらさい♡
遠慮しないで♡ このオマンコはお父さんのだよ♡

客 (はあはあ♡)

雪子 ん、ううーん♡ (挿入)

おちんちん入ってきたあ♡ ううん♡ ん♡ ん♡

(痛くない？ と聞かれて) 大丈夫だよ♡ 痛くないからあ 根元まで入れて大丈夫だよ♡ おちんちん全部、おまんこで洗おうねー♡

(奥まで入れられて) んひゅん♡ はあ はあ はあ はあ♡

あはあ♡ そーそー♡ 奥にコツンって先っちょ当たってるー ううん♡ もっといいよー 優しく押しつけてー♡ あううん……♡ ああん♡ 優しく入ってくるー♡ めりめり入ってくるよー♡

お父さんのおちんちんおっきーから入れるの大変♡

でも私がんばるねー オマンコスポンジがんばるよー♡ ふう ふう ふう
んっ♡ オマンコ、キュッとなったのわかる？ んふ♡ お父さんのおちん

ちんあつついねー♡ それにねとねとしてる♡ このねとねと洗わなきゃだねー♡ はい、こすり洗い開始♡ もっかい押しつけたらー んっ♡ ゆっくり抜いて♡ んあゝん♡ ずるずる抜けるう♡ オマンコひくひくしちゃうよー♡ もっかい入れてー♡ ああゝん♡ 抜いてー♡ んあー♡ 入れてー♡ ああゝん♡ お父さん、おちんちん洗うのじょーずー♡

んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡
ふわわわゝ オマンコスポンジの使い方もうまいねー♡ もっとごしごししていいよー♡ 私のオマンコスポンジ、アワアワにしてー♡

(ここからパンパンとリズムカルなピストンが始まります)

んあんっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ そう、そうそうっ♡ そうするとオマンコ泡立つんだよー♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ 洗う音変わってきたー♡ お父さん、おちんちんから石けんだしてるー？ ぬるぬるしてるよー♡ オマンコの中、ぬるぬるするー♡ おちんちん洗ってるのに、オマンコ洗われてるよー♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ 私、何だか、あん♡ のぼせてきた♡ お父さんのおちんちん、あっちだよー♡ おちんちんでのぼせちゃうよー？♡ はあ♡ はあ♡ はあ♡ はあ♡

オマンコのぼせるー♡ オマンコふわふわしてきたー♡ ぬるぬる気持ちいいよー♡ お父さんのおちんちんブラシ気持ちいいよー♡ もっと洗って♡ おちんちんごしごしして♡ 石けんだしてー♡ 一杯泡立たせて♡
ー〇歳オマンコスポンジで擦り洗いして♡

はあゝ♡ はあゝ♡ はあゝ♡ はあゝ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡
♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡
あゝーっ

(射精)

ふはあ はあ はあ はあ はあ はあ はあ ……あはは、オマンコ泡立ってる♡ はあ はあ はあ この真っ白い泡、何かなあ？♡ 何だか変な臭いするよお？

(呼吸が整って、誘うような口調になります)

ねえ、お父さん、私のオマンコに何を出したのお？ このネバネバする泡、なあに？ このお父さんの臭いがする泡、なんなのお♡

客 (はあはあ♡)

雪子 うふふふ♡

おとーさんっ 私、のぼせちゃったからー ベッドでネバネバのこと教えて？ ね♡？

客 (ちゅっちゅっ)

雪子 (キスされます。ダメと言ってますが演技です)

うふふふ♡ ああん、ちゅーはダメだよー♡ ちゅーしちやだめえ♡

(キス音) ちゅう♡ ちゅっ むちゅ♡ 親子でちゅーらめえ♡ うふふ♡

客 (はあはあ お父さんのことは好きかい？)

雪子 ——ええ？ お父さんのこと好きかあ？

うーん…… そうだなあ 私、今こゝんな気持ちだよお

(キスでごまかします)

んー ちゅ♡ えへ♡

ちゅっ ちゅっ ちゅう (フェードアウト)

SE

(動画を止める音)

(ドアをノックする音)

(ドアを開く音)

雪子

戻りました、ご主人様。あの、いかがでしたか？

主人公

(君は人に甘えることはあるのか？)

雪子

——え？ 私が甘えることは、あるのか？

(戸惑った感じで)

いや、え？ ご主人様のお相手をしている時は常に甘えておりますが……

——んえ？ そうは見えない？ おかしいですね…… もしや今この瞬間も甘えているのがわかりませんか？

主人公

(わかりづらい……)

雪子

(雪子は盗撮動画を~~ご~~主人様が聞いていたことをしりません)

……そうですか。ならば、わかりやすく演技をすればいいのでしょうか？客を取っていた頃のようにすればあるいは……

主人公

(……今のままでいいよ)

雪子

——はあ 今のままで、よいと。(少女漫画的に「トウンク」と乙女になります。嬉しい感じで) よかったです。雪子はご主人様の前にいる時の自分が好きですから……

(照れた感じで)

あ、えと、収録、続けましょうか。客を取っていた話などより、ご主人様にお助け頂いた下りを早く話したいのですっ

主人公

(それはまたの機会に)

雪子

——それはまたでいい？

（残念そうに）そう、ですか？ ではまたの機会に……

主人公

（ところでなにか不自由してることはないかね）

雪子

——え？ 不自由してることはないか？

いえ、こうしてご主人様のお相手をさせて頂いている上、過分なお給金まで貰っておりますので満ち足りております。

——中○生なのに、毎晩「夜の奉仕」をさせて嫌ではないか？

本気でおっしゃっているのですか？ あれだけ鳴いている雪子が嫌がつてるように見えましたか？

——明日、卒業式だが、中○生活はどうだったか？

夢のような毎日でございました。

——抱かせてほしい？

はい喜んで。ずっとペニスを硬くなさっているのが気になっていました。

……あの、この機会にお伝えしたいことがあるのですが、お許し頂けますか？

主人公

（言ってごらんさい）

雪子

では申し上げます。

雪子はこれまで幾人もの男性に抱かれてきましたが、ご主人様以外の者に対して「好き」と言ったことはございません。生まれて初めて好きと口にしたのは、あの日、ご主人様に抱き上げられた時のみ……

雪子にとって「好き」とは特別な言葉で、その初めてを、ご主人様に捧げたことを私は誇っております。

好きです、ご主人様。

公私ともにお慕い申しております。

ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡
い♡ ひっ♡ ひっ♡ ひっ♡ ひっ♡ ひっ♡ ひっ♡ ひっ♡ ひっ♡
♡

(グリュッと捻じ込まれて、さらに雪子は感じます)

ひんっ♡ お遊びにしてはっ いつも以上に♡ 雪子をつっ おイジメに……
っ♡ あひっ♡ いひっ♡ そこは、ご容赦をっ♡ あひゅっ♡ そこを
いじめられると…… あんっ♡ 雪子、動物になっちゃいますからっ♡ ふ
っ♡ ふっ♡ ふっ♡ 雪子は、雪子は、ご主人様のペニスには、うっ♡
弱いのですっ♡ 何度もお相手してるのに、慣れることが、なくて♡ はう
っ ますます好きになって♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ おっ♡
いやっ♡ 今、じわって♡ スポン、お脱ぎくらしい♡ 雪子の汁で、汚れ
てしまいますっ♡ や、らめ♡ 染みちゃう♡ あっ♡ あひっ♡ 腰が♡
見事な動きです♡ ご主人様、凄い♡ ペニス凄い♡

——は、は？ ご主人様の、ペニスの、感想を、マイクに？
そ、そんな恥ずかしいことを…… ひんっ♡
でも、言わせて、頂きまひゅ♡

(かなり昂ぶってるので、過剰な感じでスケベに読んでください。下ではご
主人様が肉棒を適当なタイミングで突き上げて楽しんでいきます)

ごひゅじん様のペニスは、さ、最高でございませしゅ♡ ひ、ひと突きされ
るたびに、(幸せ) ひあわせが、雪子はひあわへに、ひゃん♡ ひわせにな
ります♡ す、素敵なしあわせペニスです♡ こ、高貴な、ご身分の方なの
に、私を、あいひてくらさって、好き♡ 高貴な、ペニスを、くらさって、
あう この長さが、好き、この太さが、好き、です。全部しゅきれす♡ ご
主人様、すきっ♡

雪子

(ピストン再開)

あうっ♡ 今の収録はっ いかでしたかっ？ 雪子はご主人様への想いを、
伝えられていましたかっ？ この素敵ペニスへの気持ち、伝わりましたかあ
っ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あんっ ご褒美！？ ご褒美精液を
雪子にいい？ あはあ 幸せですう♡ ひんっ♡ き、亀頭のエラが、雪子マ
ンコの、ヒダにい ああん♡ 擦れてえ おおお♡ 勝手にオマンコが絞ま

って、離したくなくて、切ない、切ないよお♡ 幸せすぎて切ないよお♡
ううう♡ あっ♡ あっ♡ ひい ひい 卑しい身体が、情けないっ あ
♡ いつも、先に、イカされるのが、恥ずかしくて、おっ おっ おっ
ギンギンのペニスがっ♡ ペニスがっ♡ あひい♡ 今、いった！ またい
った♡ 何度もイカされる♡ ご主人様につ 恩人につ あんっ メイド
は、ペニスを、お慰めするのが、あうっ♡ 役目なのにつ♡ 仕事なのにつ
いかしてもらってる♡ 気持ちよくして頂いてるっ 申し訳ありませんっ
はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ うっ♡ マイクに頭がっ ひん
っ♡

主人公

（私と、私の肉棒、どちらが好きかね？）

雪子

——マイクに、ご主人様と、ご主人様のペニス、どっちが好きか、言え？
お、お許しくらさいっ こんな素敵ペニスとおー おおお 素敵なご主人
様を、お？ おおおお 比べることなんて、できまひえんっ
どちら也喜欢れすっ ご主人様も、ご主人様のペニスも、瞳も、お口も、手
も、足も、全部が喜欢れすっ 雪子はご主人様だけが、好きですっ♡ ○五
歳の雪子はあ 明日、中○を卒業する雪子はあ ご主人様が、どうしようも
なく喜欢れすう♡
はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ♡ ご主人様の子
種汁がくるっ♡ 雪子は貰えるっ♡ 幸せれすっ 幸せれすっ この世で一
番高貴な幸せ汁をくらさいっ 雪子にくらさいっ 好きっ 好きっ 好きっ
好きっ 好きっ 好きっ 好きっ 好きっ 好きっ 好きっ 好きっ 好きっ 好きっ

（射精）

ふはあっ はあっ はあっ はあっ すみません、でしたっ この雪子、は
したなく、オマンコで、ご主人様ペニスを、きゆうとしてしまっ……今
も、痙攣、しててっ 離せないっ♡ はあっ はあっ 腰がっ はあっ は
あっ はあっ 腰も抜けたっ 足、動かないっ すみせんっ いつもこう
でっ

主人公

（少し休みなさい。俺もこの気怠い一時を楽しみたい。（雪子、最高♡）

雪子

—ありがとうございますっ 少しっ 休ませて、頂きます♡ ふう♡ ふう♡ ふう♡ ふう♡ ご主人様の胸、も、ドキドキなさって♡ 幸せすぎる、はぁ はぁ はぁ はぁ と、ところで、あの、どうなさったのですか？ いつも以上に、お元気な、お腰の、動きでしたが、が……

—昔を、私を買った頃のことを、思い出して？

す、少しはあの頃より、上手くできていれば、いいのですが…… (眠くなっています) 今も、昔も、(読み・なか) 膣内を擦っていただくと、幸せになりすぎて、ご奉仕ということを忘れて…… 頭がふわつとして……

(寝落ちしそうになったのをこらえて「薬」を飲むことを思い出します。膣内射精セックスをしたあとはピルを飲むという就業規則がある設定です)

あ、ピルを飲まない…… (ポケットから薬を取り出して) んしょ…… はぁ はぁ はぁ いつも、この時だけは、現実に戻されて、悲しく、なります…… でも、ご主人様の赤ちゃんができたら、大変ですから…… お薬、飲みます。ん、ごっくん。(口を開けたまま) この通り…… お薬を飲ませていただきました。またいつでも、ペニスをお慰めください (口を閉じる)

(ふと、欲しい物はないか、と問われたことを思い出します。ほとんど朦朧とした状態なのでそれが何かは言いません)

……あ、欲しい物……ありました。あった…… 雪子は…… ご主人様の…… 赤ちゃ…… が…… すみません。気が遠くなって…… 明日、卒業式なのに……

主人公

(卒業式には私も出席しよう)

雪子

え？ ご列席くださるのですか？ この雪子のために？ あぁ 嬉しい…… こんな幸せな日々がずっと続けば…… いいのに…… すー すー すー すー すー すー すー……

(アフターピルの副作用と疲れから意識を失う雪子)

SE

(マイクのスイッチを切る音)

（マイクのスイッチを入れる音）

雪子

（これまでになく真面目な口調で）

ご主人様。勝手にマイクを使うこと、お許しください。

もしこれをお聞きになることがあれば、雪子の人生は一〇歳から〇五歳まで幸せだったと、そうお伝え致します。

（ここから半泣きに）

卒業式へのご列席、ありがとうございました……

……ご主人様のご興味が年若い少女ということは存じています。

きつと雪子の半生を記録なさったのは、最後の思い出作り、だったのでしょう。来月から私は高校にあがる歳ですから……

ありがとうございます。私を好きでいれてくれて。

好きです。ご主人様。私を忘れないでください。

大好きなご主人様へ。

敬具

SE

（マイクのスイッチを切る音）

（6秒後）

SE

（マイクのスイッチを入れる音）

雪子

（慌てた感じで）

……大っ変、申し訳ありませんでした！ よもや件の収録が海外出張時のオナタ作りだとは思いません、勘違いしたメッセージを送りしてしまいました！ 愛するご主人様をロリコン扱いして申し訳ありません！

（一回、深呼吸して）

こ、この雪子、女子高生になってもこれまで以上にご主人様のお役に立てるよう努力致します！

○クレジット

雪子

CV (キャラクターボイス) あいりん

メイド

CV (キャラクターボイス) 真白真雪

○動画

雪子

雪子一〇歳です。〇四です。一泊二日のレンタルありがとうございます

う、うん…… 保護者に言われて、
〔?〕をつけたイントネーションでお願いします
（単語の意味がわかってないので語尾に
売春？ してます）

（泣きますが、声が震える程度でお願いします）

——もう、三回くらい、してる…… あれ、涙が……

うっ うう ふぐう…… 泣いちゃってるけど、気にしないで。勝手に、
涙、出てるだけだから……

まずは、ふえらちお、です。

ぺろ…… ちゅっぶ、ちゅっぶ、ちゅっぶ、うえ うう ちゅっ ちゅ
っ、ちゅっ ちゅっ **（射精）** んっ！

ザーメン、出過ぎ……

ちょっと飲んじやった……

もう、せつくす、するの？

オマンコ見るの、そんなに楽しい？

いたっ 痛いよぉ

（苦しそうに）

ひぎっ こんなにおっきいの入らないからあ

(苦しそうな受け・遅くて深いピストン) うっ うっ うっ うっ
うっ うっ うっ うっ (射精) うう！

ふぐっ う うう うう うっ うう…… 満足、しましたか？ 一杯
出せて…… よかったですね

うん…… お客さんのザーメン、オマンコに入ってる……
あと何回する？ なるべく少ないと、いいです……